

<環境・経済・社会の現状（第3次計画策定後の変化）>

- ①新しい時代にふさわしい豊かな未来を創る！世界に冠たる「NAGOYA」へ  
・名古屋市総合計画 2023 の策定【R1.9】
- ②SDGs の理念を実現し、持続可能な未来を切り開く  
・持続可能な開発目標（SDGs）の採択【H27】、SDGs 未来都市への選定【R1.7】
- ③地域循環共生圏の創出による持続可能な地域づくり  
・第五次環境基本計画の策定【H30.4】
- ④パリ協定を踏まえて加速する気候変動対策  
・パリ協定の採択【H27】、地球温暖化対策計画の策定【H28.5】、気候変動適応計画の策定【H30.11】
- ⑤生物多様性の主流化に向けた取組の強化  
・国連生物多様性の10年【H23~R2】、なごや生物多様性センターの設置【H23.9】
- ⑥あらゆる年齢階層に対するあらゆる場・機会を通じた環境教育・環境学習の推進  
・持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議の開催【H26.11】
- ⑦リニア中央新幹線の開業に伴う変化  
・リニア中央新幹線の一部開業【R9 予定】
- ⑧産業を取り巻く環境の変化  
・IoT、ビッグデータ、AI、5G
- ⑨自然災害に対する懸念と生態系の活用  
・グリーンインフラ、Eco-DRR



<第3次計画の成果と課題>

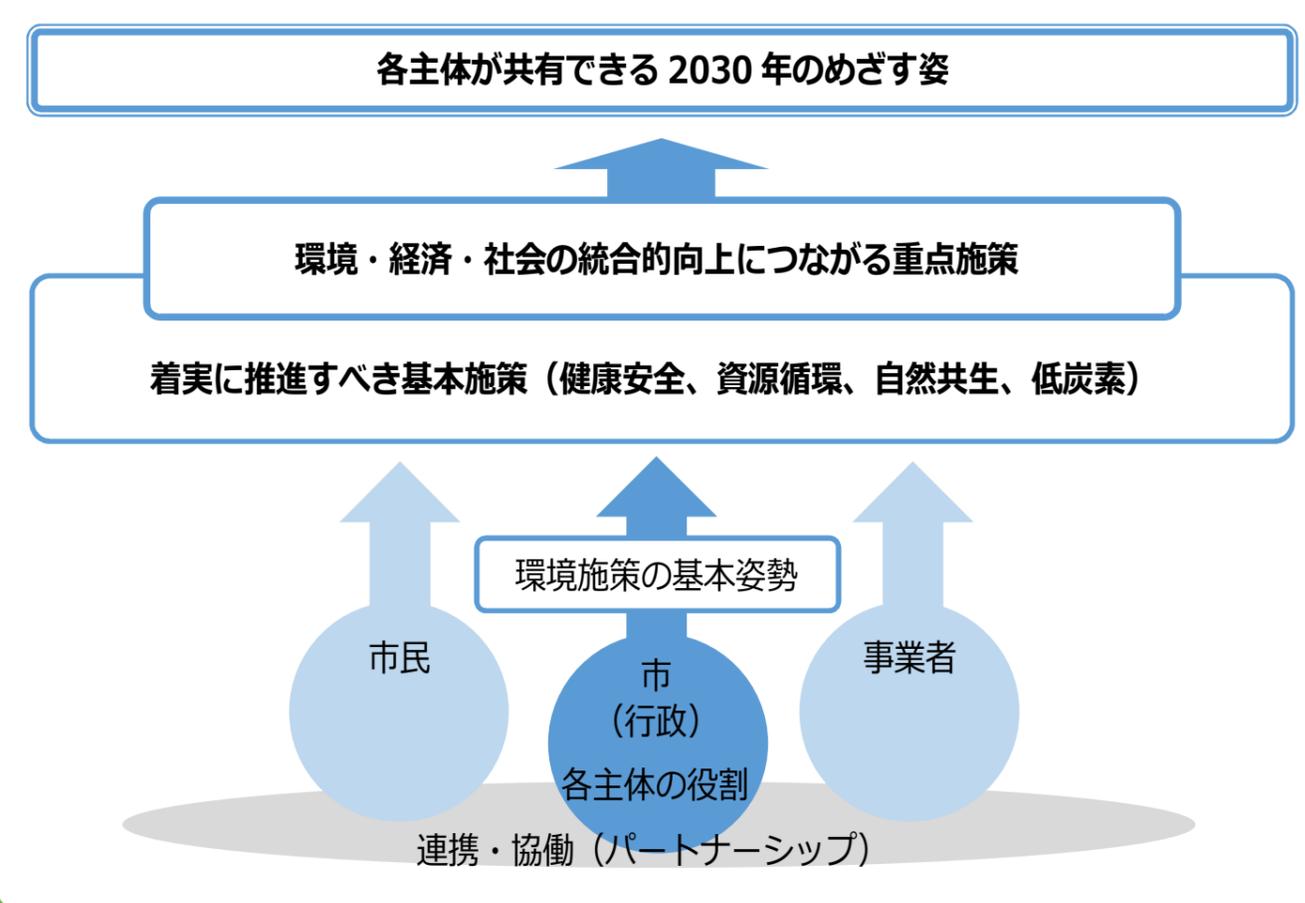
- 環境保全活動の促進、健康で安全な生活環境の確保、ごみ減量・リサイクルの推進などに着実に取り組んだ。
- 望ましい環境都市像の実現のためには、土・水・緑といった健全な自然の基盤が重要である。
- 地域が抱える課題等について、市・市民・NPO・事業者などと協働で取り組む事例を増やし、単なる参加に留まらない協働を促進していく必要がある。
- 取組方針及び施策の方向を、社会情勢等に的確に対応したものに見直す必要がある。
- 適切な指標を設定し、進捗管理を実施することで計画の着実な推進を図る必要がある。

など

第4次計画策定の考え方

- 考え方 1 **持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の反映**  
⇒「包摂性」「参加型」「統合性」といったSDGsの考え方を取り入れる。
- 考え方 2 **各主体が共有できる2030年のめざす姿の明示**  
⇒市民・事業者と共有し、実現に向けて共に歩める将来像を明示する。
- 考え方 3 **環境・経済・社会の統合的向上につながる重点施策の設定**  
⇒環境・経済・社会の課題を同時解決する分野横断的な重点施策を設定する。
- 考え方 4 **計画の実行性・実効性の確保**  
⇒適切な指標の設定と進行管理体制の構築により実行性・実効性を確保する。

第4次計画のフレーム



詳細は裏面

# 2030年のめざす姿の実現に向けて

2030年のめざす姿

パートナーシップで創る  
快適な都市環境と自然が調和したまち

## 環境施策

### 重点施策

めざす姿の実現に向けて重点的に推進

#### 都心部へのグリーンインフラの導入

- ・公共施設・民間建築物の緑化



| 環境                            | 経済                     | 社会                |
|-------------------------------|------------------------|-------------------|
| 緑地の増加<br>健全な水循環の回復<br>HI現象の緩和 | 地域経済の活性化<br>環境ビジネスの活性化 | 防災・減災<br>安らぎ空間の創出 |

#### 第20回アジア競技大会等の推進



| 環境                              | 経済                     | 社会      |
|---------------------------------|------------------------|---------|
| CO <sub>2</sub> 削減<br>環境配慮意識の向上 | 地域経済の活性化<br>環境ビジネスの活性化 | 都市魅力の向上 |

#### なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブの推進

- ・まちづくりプロジェクト
- ・SDGs 学習プログラムの制作



#### 地下水を利用した河川の水環境改善と魅力向上

- ・地下水の利用による水質改善
- ・生態系に配慮した景観整備



| 環境                           | 経済         | 社会         |
|------------------------------|------------|------------|
| 水質改善<br>健全な水循環の回復<br>生物多様性回復 | 水辺空間の賑わい創出 | 快適な水辺空間の創出 |

#### グリーンファイナンスの活用

- ・グリーンボンド（環境債）
- ・クラウドファンディング
- ・環境版ソーシャルパブリックボンド



| 環境                   | 経済         | 社会                   |
|----------------------|------------|----------------------|
| 環境施策の推進<br>環境配慮意識の向上 | ESG投資等の活性化 | 都市魅力の向上<br>インフラ整備の推進 |

| 環境                       | 経済                     | 社会                     |
|--------------------------|------------------------|------------------------|
| 環境配慮意識の向上<br>低炭素への取組の広がり | 地域経済の活性化<br>環境ビジネスの活性化 | 地域まちづくりの活性化<br>SDGsの浸透 |

### 基本施策

重点施策が基本施策をけん引

健康安全

資源循環

自然共生

低炭素

## 環境施策の基本姿勢

- ★環境・経済・社会の統合的向上に向けて、分野・組織横断的に取り組む。
- ★各主体の積極的な行動を促進するとともに、パートナーシップで取り組む。
- ★時代の潮流を的確に捉えて、柔軟な発想と手法で取り組む。

## 各主体の役割

「多様な主体と多様な形でのパートナーシップ」

### 市民

- 持続可能なライフスタイルへの転換

### 市（行政）

- 目標と方向性を提示
- 持続可能な社会づくりの担い手を育成
- 積極的な環境配慮で各主体をけん引
- 行動を促進する基盤づくり

### 事業者

- 事業活動における自主的・積極的な環境負荷の低減

## 第 4 次名古屋市環境基本計画部会の審議経過

| 会 議                                    | 議 題  | 主 な 意 見   |
|--|--|---|
| 平成 31 年<br>1 月 18 日<br>第 19 回環境<br>審議会 | ● 第 4 次名古屋市環<br>境基本計画の策定<br>について（諮問）   |   |
| 令和元年<br>5 月 20 日<br>第 1 回環境<br>基本計画部会  | ● 環境基本計画の位<br>置づけ等及び策定<br>スケジュール<br>● 第 3 次環境基本計<br>画の総括<br>● 環境基本計画策定<br>の基本的方向                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心ときめくキーワードが計画に出てくると良い。</li> <li>・ 行政と市民の協働だけでなく、行政内の協働も必要。</li> <li>・ アンケート結果を指標にする場合は、工夫が必要。</li> <li>・ やる気のない人をどう動かすのかというところに力点を置くと包摂性にもつながる。</li> <li>・ 計画策定後も市民アンケート等を実施し、実効性を確保すべき。</li> </ul>  |
| 令和元年<br>8 月 23 日<br>第 2 回環境<br>基本計画部会  | ● 2030 年のめざす<br>姿<br>● 環境施策の基本的<br>方向<br>● 報告（市政アンケ<br>ート、市民ワーク<br>ショップ）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市は支援するだけでなく、リーダーシップを発揮すること、アクターとして見せていくことも必要。</li> <li>・ 緑は量だけでなく質も高めることが大切。</li> <li>・ 質に対する意見は人によって異なるため、十分にコミュニケーションを取ることが必要。</li> <li>・ 事業者も市職員も、全員が市民。活動の場で表現すると、自分がどこにいるかわかりやすいのではないかな。</li> <li>・ 都市と自然の調和をめざす姿に掲げるのであれば、環境施策の基本的方向と施策にも都市と自然の調和に関するものが必要。</li> <li>・ 事業者は環境配慮行動により儲かるので、今後増えていくという視点を取り入れてはどうか。</li> </ul> |
| 令和元年<br>11 月 11 日<br>第 3 回環境<br>基本計画部会 | ● 2030 年のめざす<br>姿に向けた各主体<br>の役割<br>● 2030 年のめざす<br>姿に向けた環境施<br>策の取組姿勢<br>● 重点施策<br>● 報告（庁内ワーク<br>ショップ、環境デ<br>ーアンケート） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市が方向性を持って動くことは良いが、市民や事業者がやらされていると感じないようにする必要がある。</li> <li>・ 自動運転と IT 化、自然が調和するという部分や生物多様性を入れられると名古屋らしさが表せるのではないかな。</li> <li>・ アンケートでは市民は豊かな自然を望んでいる。豊かな自然に向けて何をしたいか、名古屋らしさが表せるのではないかな。</li> <li>・ 各重点施策に市民や事業者を組み込むことが必要。</li> <li>・ 具体的なゴールの設定や、やわらかい内容にすることにより、市民にもわかりやすく、やる気にもつながる。</li> </ul>                                  |